

TSUNENAKAMURA

没後100年

中村彝展

—アトリエから世界へ—

彝は、何を見たのか。
そして、何を描いたのか。

2024年11月10日[日] ▶ 2025年1月13日[月・祝]



中村彝《頭蓋骨を持てる自画像》1923年 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館蔵

1 展覧会名 「没後100年 中村 彝 展—アトリエから世界へ」

2 会 期 2024年11月10日(日)~2025年1月13日(月・祝)

休館日:月曜日及び年末年始(12月29日~1月1日) *1月13日(月・祝)は開館

3 展覧会概要(資料2~4ページ参照)

水戸市出身の洋画家・中村彝。その没後100年を記念し、大規模な個展を開催します。37年という短い生涯にもかかわらず、日本近代美術史上、偉大な足跡を残した中村彝の作品は全国各地に所蔵されています。本展では画家の代表作をほぼ網羅し、重要文化財《エロシエンコ氏の像》(1920年、東京国立近代美術館蔵、期間限定展示)をはじめ、前回展(当館ほか、2003~04年)では出品がかなわなかった《巖》(1909年、皇居三の丸尚蔵館蔵)や、約半世紀ぶりに公開される作品など、約120点が一堂に会します。また、彝が多大な影響を受けたオーギュスト・ルノワールの《泉による女》(1914年、大原美術館蔵)が、彝の作品とあわせて展示される貴重な機会となります。当館のみの単独開催となる本展を、どうぞお見逃しなく。

・出品作品画像(資料6ページ参照)

・イベント(資料5ページ参照)

《問い合わせ先》

茨城県近代美術館 担当学芸員:美術課 吉田 広報担当:企画課 鈴木 イベント担当:企画課 藤崎
〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1 Tel:029-243-5111 Fax:029-243-9992

E-mail: fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

1 展覧会名

「没後 100 年 中村 彝 展—アトリエから世界へ」

2 主催等

主催:茨城県近代美術館

特別協力:中村屋サロン美術館 協賛:株式会社常陽銀行 助成:芸術文化振興基金

後援:水戸市/朝日新聞水戸総局/茨城新聞社/NHK 水戸放送局/産経新聞社水戸支局/東京新聞水戸支局/
日本経済新聞社水戸支局/毎日新聞水戸支局/読売新聞水戸支局/LuckyFM 茨城放送

本展はパートナー企業からの支援を受けています
株式会社常陽銀行/関彰商事株式会社/ザ・ヒロサワ・シティ/株式会社アダストリア/茨城県近代美術館友の会
関東鉄道株式会社/イオンモール株式会社/茨城交通株式会社/茨城県信用組合/茨城トヨタ自動車株式会社
茨城トヨペット株式会社/学校法人リリー文化学園/沼尻産業株式会社/水戸ヤクルト販売株式会社

3 会期

令和6(2024)年11月10日(日)から令和7(2025)年1月13日(月・祝)

休館日:月曜日 *ただし、12月29日(日)から1月1日(水)は休館、1月13日(月・祝)は開館

開館時間:午前9時30分~午後5時(入場は午後4時30分まで)

※本展の巡回はありません。

※重要文化財《エロシエンコ氏の像》(1920年、東京国立近代美術館蔵)は、重要文化財の公開日数の制限に従い、12月22日(日)から28日(土)まで、写真パネルによる展示となります。

4 会場

茨城県近代美術館

5 入館料

一般 1,360(1,240)円/満 70 歳以上 680(620)円/高校生 1,130(980)円/小中生 550(420)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳・指定難病特定医療費受給者証等をご持参の方は無料

※冬休み期間を除く土曜日は高校生以下無料

※11月13日(水)は茨城県民の日によりすべての方が無料

※12月24日(火)は満70才以上の方は無料

6 展覧会概要(約480文字)

大正 13(1924)年 12 月 24 日に 37 年の生涯を閉じた、水戸市出身の洋画家・中村彝。その没後 100 年を記念し、当館では前回展「中村彝の全貌」展(当館・愛媛県美術館・愛知県美術館の共催、2003~04 年)から約 20 年ぶりに、大規模な個展を開催します。

若くして肺結核に冒され、絶えず死と隣り合わせにあった彝は、描くことへの欲求に突き動かされるかのように短い生涯を駆け抜けました。その画業は 20 年にも満たないものでしたが、「自己の行くべき眞の道」を求めて制作に全精力を傾けた彝の作品は現在に至るまで高く評価され、全国各地の美術館等に所蔵されています。

本展では画家の代表作をほぼ網羅し、重要文化財《エロシエンコ氏の像》(1920 年、東京国立近代美術館蔵、期間限定展示)をはじめ、前回展(当館ほか、2003~04 年)では出品がかなわなかった《巖》(1909年、皇居三の丸尚蔵館蔵)や、約半世紀ぶりに公開される作品など、約120点が一堂に会します。また、彝が多大な影響を受けたオーギュスト・ルノワールの《泉による女》(1914 年、大原美術館蔵)が、彝の作品とあわせて展示される貴重な機会となります。当館のみの単独開催となる本展を、どうぞお見逃しなく。

【中村彝略歴】

1887(明治20)年、茨城県水戸市に生まれる。はじめ軍人を目指す、胸部疾患に冒されて断念。療養の傍ら水彩画を描く中で絵の道を志し、白馬会や太平洋画会の画塾に通い、中原悌二郎ら美術家仲間と切磋琢磨しながら制作に励む。1909年、第3回文展に《巖》が初入選。以降も入選を重ね、新進洋画家として注目される。1911年、相馬愛蔵・黒光夫妻のすすめにより新宿・中村屋裏の画室に移り、夫妻の長女相馬俊子の肖像を描く。1916年、下落合にアトリエを新築、制作に励んだが、次第に肺結核の病が深刻化して床に伏すことが多くなった。1924(大正13)年12月24日、下落合で没。

7 広報文

【広報文1】(約60字)

重要文化財《エロシエンコ氏の像》(12/22~28 はパネル展示)をはじめ、大正期に活躍した洋画家・中村彝の優品約120点が一堂に会する大回顧展。

【広報文2】(約80字)

重要文化財《エロシエンコ氏の像》(12/22~28 はパネル展示)をはじめ、大正期に活躍した洋画家・中村彝の代表作約120点が一堂に会する大回顧展。影響を受けたルノワール作品ほか、関連資料も多数出品。

【広報文3】(約100字)

重要文化財《エロシエンコ氏の像》(12/22~28 はパネル展示)をはじめ、大正期に活躍した洋画家・中村彝の代表作約120点が一堂に会する大回顧展。影響を受けたルノワールの作品や、パトロンとの交流を伝える関連資料も多数展示。

【広報文4】(約140字)

重要文化財「エロシエンコ氏の像」(12/22~28 はパネル展示)をはじめ、大正期に活躍した洋画家・中村彝の代表作約120点が一堂に会する大回顧展。影響を受けたルノワールの作品や、パトロンとの交流を伝える関連資料なども多数展示し、彝が西洋絵画の何に学び、自己の芸術を築いたか、明らかにします。

8 展示構成 *一部変更になることがあります。

- I 士族、書生。二十歳前後の中村彝。
- II 新進洋画家として
- III 中村屋と彝。そして伊豆大島へ。
- IV ルノワール《泉による女》の衝撃
- V 下落合のアトリエから
 - i) 彝の風景画 ii) 彝の静物画 iii) 彝の人物画
- VI 死を超えて—震災前後

9 見どころ

(1) 代表作が勢ぞろい！初心者からマニアまで楽しめます。

重要文化財《エロシエンコ氏の像》(12/22~28 はパネル展示)のほか、彝の代表作が勢ぞろいする本展では、巡回がないことから展示替えは素描など一部の作品のみとなります。当館での展示は35年ぶりとなる《巖》(1909年、皇居三の丸尚蔵館蔵)と《海辺の村(白壁の家)》(1910年、東京国立博物館蔵)。約半世紀ぶりに公開となる《リンゴと瓶のある静物》(1912年頃)や《シスレー「廃屋、フォンテーヌの道」模写》(右図)。公の展覧会では初公開となる《静物》(1919年、クヴェレ美術館蔵)。彝の個展で紹介されるのは初となる《静物》(1911年、愛知県美術館蔵)及び《静物》(1919年、豊田市美術館蔵)等、いずれの作品も見逃せません。



《シスレー「廃屋、フォンテーヌの道」模写》
1918年

(2)彝が半日も絵の前にたたずんだ、ルノワール《泉による女》。

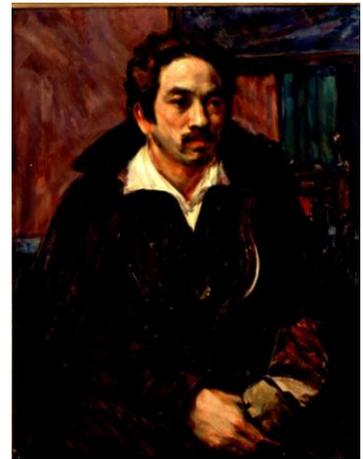
彝が活躍した時代の日本には、未だ西洋の美術作品は殆どありませんでした。それゆえ当時の美術家たちは、海外の書籍や雑誌に掲載された図版(多くの場合はモノクロ)などから構図や筆致、色遣いまでをも学ぶほかなく、その窓口は極めて限られたものでした。しかし西洋美術に関心を持つ実業家などが現われ始め、彼等が購入した美術作品がもたらされて、「泰西名画」のブームが、今まさに興ろうとしていました。岡山県倉敷市の実業家・大原孫三郎が購入したルノワール《泉による女》(右図)は、その最初期の作品です。当時、伊豆大島に滞在していた彝は、作品が東京の展覧会に出品されることを知ると、急ぎ帰京して会場に駆けつけ、作品を熟覧しました。その衝撃ゆえに、その後に描いた作品が「余りに今までと異っている」のに自身でも驚いたといえます。本展では、ルノワール《泉による女》と、影響を受けた彝の作品(《幼児》1915年など)が会場に並ぶほか、彝をはじめ当時の洋画家達が見ることができた、ルノワールやセザンヌなどの海外の画集や書籍も、あわせてご紹介します。



ピエール=オーギュスト・ルノワール 《泉による女》1914年 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館蔵

(3)肺結核に冒された彝が、なぜ絵を描き続けられたのか?—心通わせた支援者たち

人生の多くを病床に伏していた彝が、身命を賭して制作に専念できたのは、友人達の存在が大きかったことでしょう。彝の絵画制作にかける直向きな思いに共感し、その慈愛に満ちた人柄を愛した友人達は、床に伏せる彝の枕元に集い、親しく語りました。新潟県柏崎市の洲崎義郎は、その代表的な人物です。遠方に住む彼に送られた書簡は130通を超え、そこには絵画制作における悩みや、私生活についても詳しく綴られており、互いに深く信頼を寄せていたことが分かります。また、資金援助の謝礼として洲崎のもとには彝の作品が多数集まりましたが、そのコレクションをもとに、彝の存命中では唯一となる個展が、柏崎の地で開催されました。そのほか《エロシエンコ氏の像》(1920年、東京国立近代美術館蔵、重要文化財)について、洲崎と、東京における彝の最大の支援者・今村繁三が共に作品を望んだがゆえに彝が葛藤する出来事などもありました。本展では、作品にまつわる彝と支援者たちとのエピソードもご紹介します。



《洲崎義郎氏の肖像》1919年 新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵

本展広報物より——

まんが ツネさん

ツネさんのお友だちのギローさん[※]とのエピソードをご紹介します。

※ギローさんは、写真集出版後に住んでいた浜崎義郎さんのことです。彝の大親友でした。

③ 静物画をプレゼント

「そなた、絵をプレゼントしよう!」

「彝さん、静物画をプレゼントしよう!」

② セザンヌの画集

「彝さん、静物画をプレゼントしよう!」

① ツネさんはナジが大好き

「彝さん、静物画をプレゼントしよう!」

あるのです。

絶望と不安が

日なたぼっこです。

今日は、

中村 彝 展 100年 2024.11.10(日)~2025.1.13(日)

茨城県近代美術館

左から、学校配布用チラシ(部分)、駅貼りポスター(2点)

10 会期中のイベント

(1)講演会「中村彝と同時代の画家たち—岸田劉生、藤島武二、曾宮一念など」 **要申込**

講師:田中 淳 氏 [公益財団法人 大川美術館長]

日時:12月1日(日) 14:00~15:30

会場:地階講堂 定員:250名 参加費:無料

申込方法:来館・往復ハガキ・専用フォーム(QRコード又は当館 HP から)

(2)講演会「西洋絵画と中村彝」 **要申込**

講師:三浦 篤 氏 [公益財団法人大原芸術財団 大原美術館長]

日時:12月7日(土)14:00~15:30

会場:地階講堂 定員:250名 参加費:無料

申込方法:来館・往復ハガキ・専用フォーム(QRコード又は当館 HP から)



(3)鑑賞講座「彝は、何を見たのか。そして、何を描いたのか。」

講師:吉田 衣里 [本展担当学芸員]

日時:1月13日(月・祝) 14:00~15:30

会場:地階講堂 定員:250名 参加費:無料(申込不要)

(4)コンサート「百年忌記念『彝が聴いた音楽』」 **要申込**

日時:12月24日(火) 14:30~15:15

出演:廣瀬 由香里(ピアノ)、内山 恭子(ヴァイオリン)

会場:1階エントランスホール 定員:150名

参加費:無料、ただし企画展チケット(使用済半券も可)が必要。

申込方法:来館・往復ハガキ・専用フォーム(QRコード又は当館 HP から)

(5)家族でわくわく てんらんかい **子ども向け** **要申込**

参加者とスタッフと一緒に作品を見て、語り合います。

① 11月16日(土) 10:30~11:30/14:00~15:00 対象:小学生+保護者

② 12月15日(日) 10:30~11:30 対象:幼児+保護者

*申込み方法など詳細は、当館ホームページをご覧ください。

**【講演会・コンサートの申込方法】** *「家族でわくわく てんらんかい」は専用フォームのみです。

※定員に達した時点で受付を終了します。

※各イベントは日時・内容等が変更になる可能性があります。

※詳細は当館 HP(<https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp>)をご覧ください。

○来館/美術館総合受付にて参加申込書に記入。

○往復ハガキ/往信用文面に希望者全員(1枚につき4名まで)の氏名、代表者の住所、電話番号、参加を希望するイベント名、返信用宛名面に返信先(代表者の住所と氏名)を明記の上、当館「中村彝展イベント係」まで送付。

○専用フォーム/各イベントのQRコードを読み込むか、当館 HP より申込み。

11 会期中のその他の催しもの

(1)所蔵作品展「中村彝の仲間たち—大正時代の画家・彫刻家」

11月1日(金)~12月21日(土) 会場:1階第2所蔵作品展示室

(2)アートフォーラム展示「高校生特派員による“中村彝を見て、感じて、描いてみる”」

11月1日(金)~1月26日(日) 会場:1階アートフォーラム

広報用画像

- ・作者は、無記名のもは全て「中村彝」です。
- ・このページに掲載された作品は、本展覧会の広報目的の場合にのみ掲載可能です。
- ・画像のトリミング・文字のせはお控えください。
- ・画像掲載の際には、当館までご一報ください。

- 1 《巖》1909(明治42)年 油彩、キャンバス 皇居三の丸尚蔵館蔵
 - 2 《自画像》1909-10(明治42~43)年 油彩、キャンバス 石橋財団 アーティゾン美術館蔵
 - 3 《婦人像》1913(大正2)年頃 油彩、キャンバス メナード美術館蔵
 - 4 《大島風景》1914-15(大正3~4)年 油彩、キャンバス 東京国立近代美術館蔵
 - 5 《幼児》1915(大正4)年 油彩、キャンバス
 - 6 《鳥籠のある庭の一隅》1918(大正7)年 油彩、キャンバス
 - 7 《エロシエンコ氏の像》1920(大正9)年 油彩、キャンバス 東京国立近代美術館蔵(重要文化財)
 ※重要文化財の公開日数の制限に従い、12月22日(日)から28日(土)まで、写真パネルによる展示となります。
 - 8 《朝顔》1923(大正12)年 油彩、キャンバス 郡山市立美術館蔵
 - 9 《頭蓋骨を持てる自画像》1923(大正12)年 油彩、キャンバス 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館蔵
- ★ ピエール=オーギュスト・ルノワール《泉による女》1914年 油彩、キャンバス 公益財団法人大原芸術財団 大原美術館蔵
 ＊ルノワールの本作品は、いずれかの彝作品とあわせて計2点以上で掲載ください。



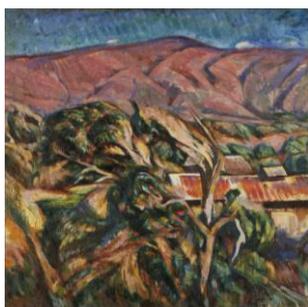
1



2



3



4



5



6



7



8



9



★